

令和3年度 史跡古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会（通算第7回）・  
古津八幡山遺跡確認調査指導部会（通算第11回） 委員意見概要

※会場での委員会及び確認調査指導部会は中止し、委員やオブザーバーに資料を送り、意見を求める形で、委員会の開催に代えた（令和4年3月回答）。

**出席委員**

石川日出志委員（副委員長・調査指導部会兼）・稲葉康宣委員・  
川内美樹子委員・川上真紀子委員・小林達雄委員（委員長）・  
齋藤純子委員・朱雁委員・高橋郁子委員・橋本博文委員（調査指導部会部会長・調査指導部会兼）・菊地芳朗委員（調査指導部会）・石黒立人委員（調査指導部会）

**指導・オブザーバー**

新潟県教育庁文化行政課 渡邊裕之氏  
新潟県埋蔵文化財調査事業団 滝沢規朗氏

●委員意見

○事務局

(1) 保存・管理関係

A. 令和3年度古津八幡山遺跡確認調査の報告

- 複数の埋葬施設をもつ「方形周溝墓」は、古津八幡山遺跡にとどまらず、日本海側東部地域における大変重要な発見だと思う。しかし、これを「方形周溝墓」と呼ぶ点については、溝の形状が現状で整っていないので違和感がある。
- 令和3年度の調査も大変大きな成果を得ることができたと思う。周辺に墓域が広がるのかどうか、令和4年度の調査に期待する。一方で、今回発見された方形周溝墓は規模も大きく、環濠内の前方後方形墳丘墓との関係が気になる。環濠の外に点在する竪穴建物の時期がわかってくると、墓域や集落のあり方など弥生終末期の動きに新しい知見が広がると思う。
- 方形周溝墓 SZ743 の東側の周溝を、現在のところ SD734 と推定しているが、位置的に埋葬施設に近く別の遺構ではないか。令和4年度の調査で東辺溝の確定が必要。令和4年度調査のトレンチ予定箇所に大きな異論はないが、方形周溝墓が単独か群集かで意味が大きく変わってくるので、この点の確認が必要。
- 令和4年度の追加調査で、方形周溝墓 SZ743 の東辺溝や埋葬施設の規模・構造、周辺の墓の有無等について確認する予定です。
- 入念な遺跡確認調査が実施されて多大な成果を挙げられていることはとても素晴らしいことである。新津丘陵が遠い昔から人々の生活の場であったことはもっと注目されるべきであろう。

●新聞記事にも載る大発見ということで、古津八幡山古墳もますます注目されると思う。すばらしい事と思うが、この「方形周溝墓」の「墓穴確認」という事しか新聞記事からは伝わらない。では埋葬されたものはどうなっているのか。素人なので「穴だけ？」とってしまう。「甕」も出土という事なので、ここに埋葬者？と思ったが、そうでもないようで、土にかえってしまったという事なのか。別に木棺が存在するという事になるのか。「埋葬者捜索中」など説明していただけると市民も興味を持つと思う。発見者のワクワク感を、ぜひ一般の人間にも伝えて欲しい。

○木棺については土にかえっていましたが、土層の断面観察で木棺のあったことがわかりました。また、埋葬者の人骨なども土にかえっている可能性が高いです。令和4年度の調査では、埋葬施設の西側についても調査を行い、その規模や構造等について確定する予定ですが、保存目的の調査ということもあり、今回は基本的に埋葬施設の内部までは調査を行わない予定です。市民の方へ発見のワクワク感を伝え、興味を持っていただけるような柔軟な発想、ワードセンスなどが必要と痛感しております。

#### **B. 令和4年度古津八幡山遺跡確認調査の計画**

●調査の目的については異議無し。

●実施計画について、北西側のトレンチは南北トレンチと近接しており目的が不明。南東側に斜交するトレンチを入れたらどうか。周溝からのびる排水溝の性格を探るため、延長部を確認するトレンチを設けたらどうか。

○ご意見を踏まえ、一部調査トレンチを修正します。

●計画に賛同する。

●現地で指摘したように、墓壇2・3の西端の確定、東辺の周溝の確定、周辺で別のお墓の有無を探る調査を続行して欲しい。また、埋葬施設の構造については他と比較できるようなデータが望まれる。周溝内埋葬にも注意を払った調査が期待される（小児用土器棺葬などにも注意）。試掘トレンチの設定が粗いので、もう少し補足的にトレンチを密に入れて他に遺構が無いか探る必要がある。

●慎重かつ精緻な調査が実施されたことに敬意を表す。令和4年度の調査については目的を明確化するとともに、今後の追加指定を前提に遺構の保護にも留意してほしい。また、土壌サンプルの採取など、将来の検討に資するデータの採取についてもあらかじめ検討をお願いしたい。

○方形周溝墓や埋葬施設の規模・構造の確定、また、他のお墓の有無の確認を主目的とし、調査の進捗状況をみながら極力各委員の意見に沿ったかたちで調査を行う予定です。

#### **C. 令和4年度以降の予定**

●計画に賛同する。

●丘陵全体を視野に入れた、長期的な調査計画が必要。

●32頁の令和4年度調査場所の地図の四角く囲まれた令和4年度調査地点の西側、谷を隔てた先に人家が群在するが、その北西に「古津」の地名が入った緩傾斜地がある。この場所が気になるので、調査が可能ならば試掘して欲しい。

○平成 29 年に「保存活用計画」を策定しましたが、追加調査や史跡の追加指定、歴史の広場の再整備・修繕等も含め、新たに中・長期的な計画の作成が今後必要と考えております。

## (2) 整備関係

### A. 復元竪穴住居の修繕について

- 復元竪穴建物の毀損が設計とどのように関係しているのかが大変気になる。日本海側降雪地域における建物仕様はどうか、他遺跡の事例を参考にして歴史的・地域的な検証を加えて欲しい。
- 団体等への説明の際に、極力当時の素材と工法で復元しているが、安全面から現代工法を必要に応じて用いている旨を伝えても良いように思う。
- 以前、同遺跡で復元家屋が火災に遭った際に、記録を取らずに片付けてしまい、焼失家屋の調査の参考にできなかった残念な思いがあった。風倒木址の調査事例に似て、自然災害時の遺構の変化・変形の参考にすることは今後の研究にとって意味のあることと考える。また、復元家屋の強度の問題などを探る参考になる。
- 毀損要因の調査（毀損当時の気候—天気・気温・風力・風向・降雪量などの詳細記録、劣化の状況）の記録は大事。
- 他県などでの同様な事例の調査（被害の状況とその対応について）は評価される。
- 修理過程の情報を積極的に公開する。ただし、現場の安全確保や作業の邪魔にならないような配慮を要する。
- 毀損原因に関するコンピューター解析、シュミレーションが建築分野の方などの協力のもとにできるならば示して欲しい（修理や展示に活かしては？）。
- 側柱の取り換えの新規材は当然木材であってほしい。
- 修理過程を画像（静止画・動画）で記録し、それを積極的に展示に活かしては？
- 事務局案に「4 棟について再整備を行う方針で進めたい。」とあるが、全て再整備するのではなく、敢えて 1 棟は再整備せず、自然災害後、竪穴建物が遺棄・放置された後にどのように劣化・腐朽し遺構が形成されていくのかを市民と共に見守り経年観察する材料にしてはとも考える（遺構形成論）。そして、いつか竪穴を再発掘しては？文化財を守ることの大切さ・大変さを考え、伝える教材になればと思う。
- 2021 年 11 月、上越新幹線乗車の折に手に取った JR 東日本の広報誌『トランヴェール』2021 年 11 月号誌上にて世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群の北海道の構成資産、函館市にある史跡大船遺跡の縄文集落復原の様子を知った。そこでは、1（発掘現場の）掘り上がった竪穴、2 主柱と梁・桁材、垂木等の骨組みの様子、3 屋根の茅を葺き下ろしたものの 3 種類を見せていた。見学者の理解や、今後のメンテナンス、修理・管理費用を考えると、全て一律に完成後の姿を見せる方法ではなく、こういう復原方法もありかと思う。先の私の案に組み合わせて、竪穴住居の構築過程から廃絶・埋没までの“竪穴住居の一生（ライフプロセス）”を見せる展示にすることを提案する。

同年 11 月 30 日、北海道函館市の史跡大船遺跡と付近の同垣ノ島遺跡の現地およびガイダンス施設、函館市縄文文化交流センターを本格的な降雪の前ぎりぎりに見学して来た。新潟と同様、否それ以上の積雪地域での遺跡の保存・整備の在り方は、古津八幡山遺跡の整備・活用に当たって参考になるものと確信した。

●古津八幡山遺跡の整備の方向性は、全ての復元家屋を一律同様な手法で修理することで確定してしまったようだが、今後、持続可能な方法での保存と、見せ方の工夫を探っていただきたいと思う（例えばジオラマ模型の上で再現するなど）。

○今回の修繕工事ですが、国の災害復旧事業として採択されたため、国の 7 割補助と、高比率の補助で修繕を行えることとなりました。当事業は災害復旧事業なので、基本的に毀損前（災害前）の状況に復すという制約があるため、上記委員意見にあるような新たな手法での整備は出来なくなりました。他方、毀損前と全く同じ構造での修繕だと、同じ気象条件でまた同じように毀損してしまうため、建築の専門家の意見や他地域・他遺跡の整備状況を参考にしながら、床下の見えない範囲でコンクリートのベタ基礎構造とする事務局案をこれまでの委員会で提案させて頂いておりました。国からその工法での災害復旧が認可され、また、国の補助金も申請に近い額が認められたことから、今回、毀損した 4 棟全てにおいて上記工法での災害復旧工事を実施することとなりましたこと、ご理解頂ければと思います。上記委員意見は次の整備の際に参考にさせていただきます。なお、平成 30 年 2 月の大雪で毀損した 2 号棟については、これまでの委員会で検討を踏まえ、引き続き毀損したままの状況とし、劣化・腐朽していく様子、経年劣化について記録を取っていき、ご指摘のように将来再発掘をし、様々な検討、検証を行いたいと考えております。

●事務局案に基本的に賛成するが、配布資料では整備後の絵姿が良く分からない点もあるので、補強工事の結果、どこが具体的に変わるのか（人工物が見えるのか、見えないのか）について、今一度示してほしい。

○今回の復旧工事では、床下の見えない範囲でコンクリートのベタ基礎構造とし、側柱を木材の新規材とすることが大きな修繕箇所です。主柱や上屋は基本的に再利用し、蝶番による補修も目視できない範囲で行います。このため、外観・内観とも毀損前と基本的に変わりません。

#### **B. 復元竪穴住居以外の整備について**

●橋、階段などが耐用年数を過ぎて劣化してきているので再整備が望まれる。身障者や高齢者のために自動車で上がるルートがあるが、途中の集落を通る生活用道路が狭く、側溝に蓋が無く危険である。地域住民や他部局と相談して改善が図れるか検討して欲しい。

### **(3) 活用関係**

#### **A. 令和 3 年度の活用関係の報告**

- 3年生が地域のお宝探検として、植物園や美術館を訪問し、八幡山弥生の丘展示館にもおじゃましました。丁寧に説明していただき、ありがたかった。3年生には少し難しいかなと思ったが、地域のよい所（宝）として学ぶことができた。5年生や6年生の社会科の学習にも利用・活用していきたいと思う。出前授業などもあれば活用したい。  
※p. 40 の利用一覧に金津小が3人となっているが、3年生児童 39 名と引率3名でした。

○大変失礼いたしました。訂正させていただきます。

- コロナ禍で入場者が大きく減っているのはどこの施設も同じなので、あまり気にする必要はないと思う。むしろ、回復のためにどれほどの周知、広報等を行うかが重要。今まで入館が多くない団体等へ新たな広報を行ってもよいのではないか。
  - コロナ禍でも、特別展や講演会をできるだけ中止せずに開催したのは良かったと思う。マイナス思考にならず、むしろ魅力ある企画を行うことが、今後の入館者増や施設の周知につながると考える。
  - 新潟市内には 100 校余りの小学校がある中で団体利用の学校が少ないのは何故か。多少の手立てが必要だと思う。例えば、「令和2年度・3年度の弥生の丘展示館団体利用一覧」の資料によると、2年連続で利用した学校が4校ある（小規模校：3校・中規模校：1校）。児童数が比較的多い学校が児童を分散して来館しているとみられる（大規模校：1校）。これら5校について、それぞれの学校の担当者に体験学習の内容や次年度担当者への引き継ぎ方法、また活動を通して良かった点、問題点、反省すべき点等を具体的に聞き取り、参考にして少しでも多くの学校が利用しやすい環境づくりに活かせないか。八幡山遺跡一帯や弥生の丘展示館で一人でも多くの児童に体験する機会を増やして欲しい。
  - コロナ禍の中、各体験イベントの定員数をオーバーした参加者受け入れ数に、弥生の丘展示館職員の方々の頑張りややさしさが伝わる。
  - コロナ禍の中であって来館者の減少はしかたのないことと思う。古墳を訪れる方が多いとの事なので、展示館の入口あたりに古墳の案内を置いてはいかがか。または、古墳の写真をスマホで撮って、展示館で見せた人に「古墳カード」のようなものを渡すというような事でも来館者は増えると思う。
  - コロナ禍の中、オンライン配信は有効な方法であったと思う。
  - 近くの新潟県埋蔵文化財センターとの初の共催事業の効果について、アンケートなどのデータは無かったのか。
- 企画展自体のアンケートのデータはなく、関連講演会のアンケートのみとなります。今後、県の令和3年度の事業報告が出た段階で、入館者数などについて比較・検討しようと思います。なお、パンフレットやチラシ、ポスターなどを両館で統一して作成したため、それらの経費を抑えることは出来ました。
- 新型コロナウイルス感染拡大のなか、充実した活用事業を実施されたことに敬意を表す。この状況はしばらく続くと想定されるので、直接入館者数だけでなく、別の指標（オ

ンライン配信や動画公開により、遠方の方の視聴者が増加した等)で分析、評価することも重要と思う。

○今後、検討していきたいと思います。なお、令和3年度の講演会のアンケートは来場者のみの実施で、今後、オンライン配信の参加者へもアンケートを実施できるようにしたいと思います。なお、令和4年2月6日に開催した講演会は、県による新型コロナウイルスまん延防止等重点措置の期間中であつたこともあり、会場の25名に対し、オンライン配信が45名と、オンライン配信の参加者の方が多かつたです。

#### **B. 令和4年度の活用関係について**

- コロナ禍の中、体験イベントや企画展、そして企画展関連講演会等の予定が提示されることは入館者にとって楽しみの一つだと思われる。
- 10周年記念の美術館との共催の展示会、期待している。
- 新津美術館との共催は素晴らしい試みだと思う。毎年では無くても、今後でもできると良い。どのように“住み分ける”のかも楽しみにしている。また、今後県立植物園との共催事業（例えば、遺跡の古植生復元など）も期待している。

#### **(4) 運営関係**

- 魅力的な展示や企画を行う施設として、しだいに県内外に知られてきていると感じている。良い流れをこれからも続けていただけることを期待している。

#### **A. 令和3年度弥生の丘展示館の臨時休館についての報告**

- 紙媒体とネット情報による周知は適切と判断されるが、電話での問い合わせに即応する音声ガイドも可能ならば試みていただきたい。

#### **B. 令和4年度弥生の丘展示館の臨時休館予定について**

- 「弥生の丘展示館」で、Facebook やインスタグラムなど SNS を開設してはどうか。若者にはアピールできると思う。「新潟県埋蔵文化財センター」を参考にしてみてもどうか。
- 同様に適切と判断されるが、電話での問い合わせに即応する音声ガイドも可能ならば試みていただきたい。

#### **(5) その他**

- 会議の持ち方については、現行の書面審議ではなく、講演会などと同様に対面、オンライン併用の形態を希望する。なぜならば、書面審議は委員の負担（時間的労力）が想像以上に大きい点や事務局の取りまとめの負担も大きいことが想像されるためである。また、書面審議は一方通行で、委員相互の意見交換や事務局を含めた質疑応答ができないことも欠点である。